

総合基礎科目	人間と社会「こころと身体」					
看護学科	必修	1単位	講義	平成30年度	前期	2年次
臨床検査学科	必修					
科目名	宗教と科学 Religion and Science					
担当教員	荒川善廣					
目的	「人間とは何か」について、宗教と科学の関係を踏まえて、追究する。					
目標	「人間とは何か」ひいては「生命とは何か」という問いに関しては、さまざまなアプローチの仕方がある。宗教の立場からは、たとえば神による天地創造、人間創造が説かれている。他方で、科学の立場は一見、宗教の立場と矛盾するかのように受け取られがちだが、必ずしもそうではない。本講では、歴史のなかに宗教と科学の対立抗争を見ていくのではなく、宇宙の始まり、物質と生命、心と身体などの問題を通して、いかに両者が協調しながら人間存在の解明に資することができるか、おもに哲学の立場から考察していく。					
他科目との関連	生命と科学（1年前期）					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	試験の成績				0.9
	その他	出席回数など				0.1
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	荒川善廣『アイデアと物のあはれ』文芸社					
参考資料	A. E. マクグラス『科学と宗教』教文館					
備考 (受講上注意、事前学習等)	2回目以降はテーマを予告するので、テキスト等の該当箇所を読んでおくこと。講義に集中し、講義中に理解すること。初回に配付した資料を毎回持ってくること。					